

畑 潤基 選手・ヘニキ 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
39

はた じゅん き
畑 潤基 選手
FW 27歳

名古屋市守山区出身で、地元の小中学校で学び、高校で天白区の東海学園高校に進学し、インターハイでベスト16まで進んだ。2016年東海学園大学4年在学中にJ2のV・ファーレン長崎の特別指定選手となり、9月にJリーグ戦に初出場し、10月に初得点を挙げたことは、彼の一番嬉しかった記憶の一つとして今も残っている。

2017年にV・ファーレン長崎でプロ契約をしたが、夏にJ3のアスルクラロ沼津に期限付き移籍し、2018年は沼津の主力選手として出場し8得点とチームに貢献した。

しかしこの1年半は自分の中でも歯がゆい1年でもあった。2017年長崎はJ1昇格を成し遂げたが、1年でJ2に降格してしまい、2019年にクラブへ戻った時は、またJ2の舞台であった。

2019年からの2シーズンはJ2長崎の主力選手として活躍し、昨シーズンの栃木SCを経て今シーズンから岐阜に完全移籍で加入。ホーム開幕戦の愛媛FC戦では2得点を挙げて5679人の観客の前で3対0の完封勝利デビューを果たした。

チームはなかなか結果が出ていないが、ここからの活躍に期待がかかっている。

岐阜が4つ目のチームであるがどこのチームでも元日本代表選手がいて、身近で様々な練習や技術、立ち振る舞いや言動を見たり聞いたりして大変勉強になっている。ここFC岐阜でも大勢いるので学び取って自分の武器を磨き、FC岐阜のこれからのJ2昇格、さらにはJ1へと貢献していく覚悟ですと、秘めたる力強さが垣間見られました。

目下1歳の長男の遊び相手が楽しいので、奥さんは岐阜県多治見市に近い瀬戸市生まれで、岐阜県人と同等の土地勘があり、友人や学友も近くにいて、その上にファン・サポーターも温かく岐阜生活を楽しく過ごせています。コロナ明けには応援大使の安八町と輪之内町にはまず行きたいと思っています。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
5

ヘニキ 選手
MF 32歳

ブラジルでの彼の家はサンパウロから遥か南、車で10時間のサンタカタリナ州クリスチーナにあり、ブラジルでも雪が降る地方で気候は岐阜に似ているそうだ。男4人兄弟の2番目として生まれ、ブラジルで4年間プロサッカー選手として家族全員の応援を受けていました。

2014年に来日しFC岐阜に加入した際には、ラモス瑠偉氏が監督で驚いたとのこと。

2014、2015年と岐阜で活躍し、2016年はブラジルへ帰国しましたが、2017年は再びFC岐阜でプレー。2018年から2年間栃木SC、2020年から2年間レノファ山口FCでのプレーを経て、今シーズンから3度目のFC岐阜への加入となりました。

既に岐阜では多くのブラジル人や日本人の友人たちがいて、家族ぐるみでのお付き合いが始まっています。また2019年にFC岐阜のJ3降格のニュースで大変ショックで悲しかったことを覚えているので、今年は自分を成長させてくれたこのチームとJ2に戻るのが最大の目標です。そしてJ1にも行けるように頑張れば最高です。その時は日本に慣れ過ぎてブラジルに帰れるか分かりませんが、日本に住むなら岐阜が一番だと語る。

チーム内ではフレイレ選手とは家族ぐるみのお付き合いで、奥さんたちは日本料理も日本人の友人たちから学んで楽しんでいます。ブラジルの食材は殆ど岐阜で手に入り、困ることはありません。また日本料理であろうが、どんな食材も大好きなので、ブラジル料理がなくても楽しく過ごせると言う、全環境順応型の人間で、且つ多くの友人に囲まれて楽しく過ごす陽気なブラジル人です。

将来の夢は育成年代のコーチか、ビジネスで会社経営をすることらしい。まだまだこの愛するFC岐阜を昇格させることに100%捧げるために戦って行きます。

羽島市の応援大使ですが、コロナ禍でまだ行くことができていないが、早く地元の皆様と交流したいと願っています。